

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 20 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530621

研究課題名(和文) 社会関係基盤による連帯とその制度化

研究課題名(英文) Solidarity and Its Institutionalization by Net-base

研究代表者

三隅 一百 (Misumi, Kazuo)

九州大学・比較社会文化研究科(研究院)・教授

研究者番号：80190627

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：人びとの連帯とそれにもとづく協同・支援を支える社会的メカニズムとして、関係基盤の多様性が重要であることを明らかにした。関係基盤は、人びとの社会的紐帯を基礎づける共有属性であり、社会関係資本の蓄積場でもある。関係基盤の多様性水準が高い社会では橋渡し型社会関係資本が蓄積されやすく、それが抽象度の高い連帯意識を醸成する。ただしそこでは、個別的な関係基盤による連帯がなければならない。また、ネットワーク想像力、とりわけ一般化された互酬性が重要な媒介的役割を果たす。以上より、連帯の制度化のためには、一般化された互酬性の規範につながる形で、人びとが実質的に関与する関係基盤の多様性を増すことが有効である。

研究成果の概要(英文)：This study found that the net-base diversity was the key of mechanisms of solidarity and cooperation among people in a large scale society. Net-base is a common attribute that provides a basis of personal ties; moreover, it consists of a field where social capital is accumulated. High level of net-base diversity in average enhances accumulation of bridging social capital by connecting capital flow in each net-base, which makes it possible that people have solidarity at the abstracted level. At the same time, this process is conditioned by local solidarity based on concrete net-bases. This study additionally explored an intermediary role of norm of generalized reciprocity that can be captured as a kind of network imagination. Then, an effective method for institutionalization of solidarity is to increase the diversity of active net-bases, in terms of which norm of generalized reciprocity spreads among people.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：連帯 社会関係資本 関係基盤 社会ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

連帯や社会統合は社会学の古典的テーマでありながら、実証的に正面からそれらを捉えようとする研究蓄積は脆弱である。その主原因は、社会関係の総体的性質として考えられる連帯や社会統合を、直接的に計測することが困難な点にある。

こうした研究状況をふまえて私は、「関係基盤」(net base)の概念を導入して連帯に実証的にアプローチする研究に取り組んできた。関係基盤は血縁、同郷、同僚、同窓のような共有属性を指しており、「縁」に近いけれども、縁の共有が仮想的な集団メンバシップの働きをする側面に着目して考案した概念である。

平成18～20年度萌芽研究に採択された研究(課題番号18653044「社会関係基盤による連帯分析」)では、連帯概念の理論的な整備とその測定方法の開発を、試験的なインターネット調査(以下「2007連帯調査」とよぶ)にもとづいて試みた。その成果として、「われわれ日本人」のような抽象的な連帯意識が、身近なところで人びとをとりまく関係基盤の豊富さに規定されている可能性を、実証的に示した。

以上の展開をふまえて、より統合的に社会関係資本に関係づけて関係基盤にもとづく連帯概念を整え、福祉国家の問題を念頭におきながら、理念的であるがゆえに脆弱さをもつ連帯の制度化がどのような条件下で実現されやすいのかを考察するために、本研究を立ち上げた。

2. 研究の目的

人びとの連帯とそれにもとづく協同・支援が、何を基盤とし、どういった社会的メカニズムに支えられて可能となるか(ないし困難となるか)、その諸条件を理論的・実証的に解明し、それをふまえて連帯の制度化の方途を探ることを目的とする。

本研究では、そうした社会的メカニズムおよび連帯制度化の問題を実証的に考察するための鍵概念として、「関係基盤」に着目する。

3. 研究の方法

本研究方法の理論的特色として、関係基盤の概念を軸にして、現実の連帯の全体社会的な様相を探索的に把握している点がある。これによって、様々なアイデンティティおよび排除の力学が交錯するグローバル化社会の連帯問題を、経験的に柔軟にとらえることが可能になる。それを通して、社会関係資本の議論を包括した連帯の新たな理論を構築することを目指している。

よりテクニカルには、上記の理論概念に則した実証分析のために、それ自体が社会学的

含意をもつ社会関係の集計・分析方法を整備しようとしている。具体的には、連帯はソシオセントリック・ネットワークの布置連関から解釈的に言及されるという理論的想定にたち、所属行列(二部グラフ)の分析法を応用して、その布置連関の暫定的な計測モデルを考案している。これによって連帯の様相に関する解釈分析をできるだけ反証可能なものにする狙いがある。

以上の理論的・方法的工夫をふまえて、2007連帯調査の継続調査を実施している。ここでは、比較のために調査項目の継承に配慮しながら、その後の人びとの連帯意識の変化の把握も視野に入れた。また、分析結果の科学的信頼性を増すために、無作為法本抽出によるインターネット調査とし、対象者を福岡市民から九州在住者に拡張してより多角的に比較検証できる設計とした。

以上の研究方法により、福祉国家が漠然と前提にしている「連帯」に実像を与え、それがローカルな関係基盤の状況に規定されつつ、いかなるメカニズムによって、人びとが実感できるものになるかというそのプロセスを明らかにしようとした。そして、そこから制度的連帯の政策的考慮点となる手がかりを探った。

4. 研究成果

人びとの連帯とそれにもとづく協同・支援を支える社会的メカニズムの解明という本研究の第一義的な目的について、以下の成果を得た。

1) オリジナルな鍵概念である関係基盤の概念を、社会関係資本の蓄積という観点から連帯概念と関係づけて、概念的関係を整えた。社会関係資本としての連帯生成には、社会ネットワークにもとづく連帯の拡張が重要である。連帯が未知の人びとに及ぶとき、<日本人>のような抽象的な関係基盤を共有していれば、そのシンボリックな働きにより日本人全体のソシオセントリック・ネットワークが想像され、それが未知の<日本人>との間に最低限の紐帯を確保する。この関係基盤によるネットワーク想像力が、緩やかで広域的な連帯を生む。

連帯と関係基盤をつなぐシンボル概念は経験的に捉えにくいだが、シンボリック関係基盤という視点から、人びとの社会的属性と連帯意識の関係に実証的にアプローチできる。また、この概念装置は、福祉や社会保障を支える仕組みを国家に依存する仕方の調整(いいかえれば従来の福祉国家とは異なる市民社会的な連帯の仕組みの模索)という観点から福祉ないし福祉国家の概念にもリンクできる。これにより、人びとの社会意識の側面から、ネットワーク基盤が新たな市民的連帯を創出する条件を実証的に分析する道具立てを、ある程度整えることができた。

2) この連帯の関係基盤モデルにもとづいて、連帯高次化の仕組みを探求した。関係基盤のシンボル作用にもとづき、より抽象度の高い広範囲の連帯（これを高次の連帯という）を創出するためには、抽象度の高い関係基盤がリアリティのあるネットワーク想像力を醸し出さなければならない。それを関係基盤の多様性が規定する仕組みを考察した。

関係基盤の多様性は、個人の多様な関係基盤への関わりによって、逆に異なる関係基盤がリンクし合う性質を捉えている。いわば個人をコネクターとして、異なる関係基盤上のソシオセントリック・ネットワークが互いにリンクするのである。ソシオセントリック・ネットワークは社会関係資本の蓄積場であるから、関係基盤の多様性の平均水準が高い社会では橋渡し型社会関係資本が蓄積されやすい。このことが、連帯高次化の効果を生み出す。この理論仮説は、関係基盤の多様性を友人関係や団体参加でみた場合、表1に示されるように、今回のデータで大方支持されることを確認した。

ここで連帯意識は、同類連帯と異類連帯という異なるベクトルに留意してきている。同類連帯は、「同じ日本人だから助け合しましょう」という言い方に共感できるか、のように関係基盤の共有にもとづく連帯意識である。異類連帯は、「学歴が異なる人たちと助け合しましょう」のような言い方に共感できるか、のように関係基盤の違いを越えた連帯意識である。実際にはこの2つは両立できるものであり、両方に高得点を示す対象者が37%いた。これも重要な確認である。

なお、連帯意識や市民的態度の醸成に対しては、関係基盤の多様性だけでなく、居住地域社会のまとまりや帰属効果の効果も表れる。これは地域的な結束型社会関係資本の蓄積効果を示すと考えられる。このように、結束型と橋渡し型の調整という社会関係資本の基本課題は、連帯の文脈でも重要であることがわかる。

表1 . 関係基盤多様性の効果（重回帰分析）

	同類連帯	異類連帯
(定数)	(-0.43*)	(-0.56**)
年齢	0.05	0.07
友人基盤数	0.08*	0.08*
団体基盤数	0.12**	0.12**
決定係数 R ²	0.029**	0.033**

3) 関係基盤の多様性が連帯の高次化を促す仕組みをさらに探求し、そこにネットワーク想像力というべき規範生成の仕組みが媒介していることをみいだした。それには信頼、寛容等も関係するが、とりわけ重要なのは一般化された互酬性の規範である。一般化された互酬性は、間接交換の社会統合機能に関わる文化人類学研究に遡るが、近年 R.パットナムが社会関係資本の基本要素とし、市民社会

の要として再認識されてきた。

実際に規範効果を見ると、表2に示すように、関係基盤の多様性の効果は、一般化された互酬性や信頼等の社会関係資本の効果に吸収されることがわかった。中でも一般化された互酬性は、異類連帯をより強く規定する。この効果は、「日本人」のようにより抽象度の高い連帯に対して同様に認められる。その意味で一般化された互酬性は連帯の高次化を促す効果をもつ。

なお、一般化された互酬性は、「親切は巡り巡っていつかは我が身を助ける」等の意見に対する賛否で測定したもので、規範とまではいえないが、一方で、「まったくの他人から生涯忘れられないような助力を得た」経験等と強く関連する。こうした点からみても、ネットワーク想像力の規範化に関わる側面を捉えているといえるだろう。

表2 . 規範の効果（重回帰分析）

	同類連帯	異類連帯
(定数)	(-2.08**)	(-2.56**)
年齢	0.02	0.06
友人基盤数	0.03	0.03
団体基盤数	0.05	0.05
一般的信頼	0.26**	0.15**
寛容	0.02	0.11**
一般化された互酬性	0.18**	0.24**
決定係数 R ²	0.164**	0.171**

4) 以上に関連した成果として、結束型社会関係資本と橋渡し型社会関係資本の関係に関する確認がある。連帯は、結束型社会関係資本を基礎とする。けれども、抽象度の高い関係基盤は個別的な関係基盤を包摂するので、高次の連帯は自ずと低次の個別的連帯の間の橋渡しという課題を背負う。つまり、連帯の問題は本来的に結束型社会関係資本と橋渡し型社会関係資本の調整課題を含む。

この調整課題は、連帯意識の構造を実証的に分析するときにも基本的な枠組みとなる。本研究では、九州新幹線の開通や東日本大震災と連帯意識との関係についても考察した。2007 連帯調査との年次比較や新幹線沿線地域とそれ以外の地域との比較でみると、九州新幹線開通が東日本大震災と共振して、九州の人びとに何より「日本人」としての連帯を強めた可能性がある。けれども一方で、その連帯意識がより個別的な関係基盤による連帯を伴わない場合、異類連帯に対して反応が悪く、社会参加の度合いも低い。

つまり、いわば地に足の着いた連帯の高次化が重要なのであって、個別的な関係基盤による連帯を橋渡しするような調整を経てこそ、抽象的な関係基盤による連帯は実質的なものになることが示唆される。

5) 以上をふまえて連帯の制度化についていえば、一般化された互酬性の規範の醸成に資する形で、人びとが実質的に関与する関係基

盤の多様性を増すことが、高次の連帯促進のための制度的な基盤条件として重要である。福祉国家は国家レベルの連帯を前提にしているが、同時にそれは社会階層（階級）や世代や性に則して不均質に整序されやすい。そうした不均質さを抱えながらも年金制度等を円滑に機能させるためには、ネットワーク想像力にもとづく連帯の高次化が必要条件だと考えられる。そのための方策としてローカルな関係基盤多様性の実質化に着目する本研究の指針は、実践的にもユニークな視点を提供する。

2013年9月には、以上の理論枠組みと成果の一部を社会関係資本の視点からとりまとめて、著書『社会関係資本 - 理論統合の挑戦』（ミネルヴァ書房）として公表した。本書が評価され、第12回日本NPO学会賞優秀賞を授賞した（2014年3月15日）。また、ソーシャル・キャピタルワークショップ『社会学からみた社会関係資本』（2014年3月13日、日本大学法学部）において、関連内容の招待講演を行った。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

三隅一人「一般化された互酬性と連帯 関係基盤論の枠組みから」『比較社会文化』20, 2014年, 77-86.

Misumi, Kazuto, “Net-base Theory of Social Capital,” 『社会分析』41, 2014年, 67-85.

Li Wei, “The Use and Transformation of Social Networks in the Migration Decision-making Process: How Chinese Engineers Migrate to Japan,” 『社会分析』40, 2013年, 143-164.

Li Wei, “From ‘Floating Population’ to ‘Guest Beijinger’: Identity Formation of Migrant Workers in Beijing,” 『比較社会文化研究』33, 2013年, 91-104.

〔学会発表〕（計 13 件）

三隅一人「社会関係資本をうみだす社会構造のしくみ」ソーシャル・キャピタルワークショップ『社会学からみた社会関係資本』（2014年3月13日、日本大学法学部）

三隅一人「九州新幹線は連帯を強めたのか」第126回日本社会分析学会例会（2013年12月21日、竹田商工会議所）

三隅一人「連帯意識の関係基盤メカニズム一般化された互酬性に着目して」第86回日本社会学会大会（2013年10月13日、慶應義塾大学）

三隅一人「連帯意識の構造」第125回日本社会分析学会例会（2013年7月14日、広島大学）

三隅一人「一般化された互酬性は連帯を促すか」第71回西日本社会学会大会（2013

年5月12日、琉球大学）

三隅一人「弱い紐帯と態度の一般化—ソーシャルキャピタル論の新展開(1)」第85回日本社会学会大会（2012年11月3日、札幌学院大学）

Li Wei, “The Use and Transformation of Social Networks in the Migration Decision-making Process: How Chinese Engineers Migrate to Japan,” 第85回日本社会学会大会（2012年11月3日、札幌学院大学）

Li Wei, “Hukou Status, Place Affiliation, and Identity Formation: The Case of Migrant Workers in Metropolitan Beijing,” The 3rd International Conference on Sustainable Future for Human Security（2012年11月5日、京都大学）

三隅一人「関係基盤の地域的構造—マクロ社会関係資本への切り口」第123回日本社会分析学会例会（2012年7月、山口大学）

三隅一人「弱い紐帯と一般化された互酬性」第70回西日本社会学会大会（2012年5月19日、鹿児島大学）

三隅一人「連帯高次化のネットワーク理論」第53回数理社会学会大会（2012年3月14日、鹿児島大学）

三隅一人「ネットワーク想像力の仕組み」第122回日本社会分析学会例会（2011年12月17日、香川大学）

三隅一人「寛容社会の連帯 - 理論的考察」第69回西日本社会学会大会（2011年5月22日、島根大学）

〔図書〕（計 2 件）

三隅一人『社会関係基盤による連帯とその制度化』科研費報告書, 2014年3月, 56頁.

三隅一人『社会関係資本—理論統合の挑戦』ミネルヴァ書房, 2013年9月, 268頁.

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://scs.kyushu-u.ac.jp/~kmisumi/index.html>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

三隅一平 (三隅一人) (九州大学大学院比較社会文化研究院・教授)

研究者番号 : 80190627

(2)研究分担者

()

研究者番号 :

(3)連携研究者

李蔚 (Department of Sociology, Shanghai Administration Institute, 講師)

吉武由彩 (九州大学大学院人間環境学府・博士課程)

李双龍 (九州大学大学院比較社会文化学府・博士課程)